

## ここいそ保育園における自己評価 令和 6年度

評価項目	評価内容(課題・改善策)
保育目標	子どもが生活の中で必要な習慣が身につくように、個々の計画を立てて丁寧に支援するよう努めた。全ての活動において、子どもたちが自発的に取り組めるように環境を整え、肯定的な言葉かけを保育者一人ひとりが心がけるように努めた。子どもが安心して保育園生活が送れるように信頼関係を大切に築くことを意識した。
保育について	各クラス、個々の発達を捉えながら色々な経験を通して子どもたちが共に成長できるように保育計画を立てることができた。季節を感じられるような絵本、文化に関連する絵本などの物的環境構成にも配慮して職員間で話し合いながら進めることで行事にも興味や関心、親しみをもって参加できたり、季節の製作活動も意欲的に楽しむことができた。子どもの興味関心を探り、遊びの設定から子どもの創造性や意欲を引き出してさらに発展させた遊びの展開については、今後の課題となっている。
行事	保育園での活動と子どもの成長を保護者に参観してもらう機会を設けた。(二歳児クラス) 今後は全クラスの参観日を計画していく。夏まつりでは、初めて親子参加で集まり、卒園児童を招待したりと保育園を通して地域交流の機会を持つことができた。
研修	専門性強化を目的としたキャリアアップ研修の受講や市の主催する研修など、全職員が各研修に参加できるよう積極的に計画している。また、研修報告を職員間で共有する時間を設けて園全体で学ぶ機会とした。会社が推奨する保育書を全職員が通読し、園内研修として保育士間で意見交換をする時間を設定し、個々の保育の振り返りや保育の質の向上を目指して園全体で成長できるようにしていく。
家庭・地域との連携	保護者と日々の連絡を取り合いながら子どもの成長を共に見守ることができるように努めた。個別に面談する機会を設けて保育園の活動内容や保育目標、子どもの園生活の様子などを保護者に理解してもらうように努めた。今後は、いつでも家庭で困ったことや気になることなど、気軽に相談できるような意見箱の設置なども検討していく。
安全対策	保育安全計画を基に毎月の取り組みを意識して避難訓練を行い、園内外環境の安全点検も常に行っている。保育園の生活における安全、災害や事故発生時の対応、交通安全について、避難訓練時には子どもに指導する機会を設けた。保護者には送迎時の子どもの安全についての園だよりや掲示を通して伝え、協力をお願いしている。
情報発信	園だより、クラスだより、給食だよりやホームページを通して活動内容などを知らせている。緊急なお知らせなど(流行りの感染症、自然災害に関すること)は、玄関の掲示板を活用したり保護者へ一斉メールで配信して情報提供した。
情報保護	職員全体で個人情報保護の重要性を再確認する機会を設け、情報を書類で管理する際は、適切に保管して紛失や漏洩の防止に努めた。
調理内容	調理担当者が子どもたちの喫食状況を把握し、野菜なども好んで食べられるように味付けを工夫した。また、絵本の中に出てくる献立を実際に食べるという「絵本給食」を実施し、給食の時間が楽しくなるような食育を計画した。
健康管理	年間保健計画を基にその時期に計画した取り組みを実施している。全国的に大流行となった手足口病については罹患した子どもが多数出たが、日々罹患児童数を更新して保護者の注意喚起につなげた。一年間を通して、子どもの視診や体調管理・観察を注意深く行うように努めた。また、園全体で子どもの体調について気を配りながら職員間で情報共有できた。
事務管理	尼崎市の窓口として、保護者や地域の保護者からの提出書類は迅速に処理をして提出している。個人情報を含む書類の保管については、保管期限を確認して適切に管理している。